令和６年度　第３回図書館協議会議事録

１　開催日時　令和７年１月 16 日（木）　午後２時～午後４時

２　開催場所　相良庁舎４階　大会議室

３　出 席 者

【牧之原市図書館協議会委員】

鈴木　善彦
増田　曜子
岩崎　陽子
大石　武晴
佐藤　寛
武田　てるみ
水嶋　みゆき

【事 務 局】１名欠席

教育長　橋本　勝
教育文化部長　竹内　英人
図書係長兼館長　八木　いづみ
主任　水野　秀信
主査　望月　安里
会計年度任用職員　芹澤　芳里

４　傍聴者　４名

５　議　題

【協議事項】

（１） 市子ども読書活動推進計画について

【報告事項】

（１）図書交流館「いこっと」の閉架書庫について

（２） 令和７年度人員体制について

６　内　容（要点記録）

教育長挨拶

今年から放送されている大河ドラマで田沼意次が登場するが、ゆかりの地として牧之原市を全国に発信していくと共に、牧之原市を訪れて知ってもらう機会にする年としたい。図書館では文化の森図書館が開館して利用者も増えており、牧之原市立図書館の充実が図られてきている。協議会の委員からも様々な意見や指摘を受けて、前向きに捉えてきた結果だと思う。今後も利用者にとって良い図書館であり続けるために取り組んでいきたい。

【協議事項】

市子ども読書推進計画について

◎事務局説明要旨

子ども読書推進計画を改定するにあたり関係各課の一次計画のとりまとめを報告する。一次計画では、図書館の整備充実や各園・各学校における読書活動の取り組みを掲げていた。ただし平成 18 年（2006 年）に策定したものであり、子どもを取り巻く環境も変わっていることから概要のみ整理した。

社会教育課としては図書交流館と文化の森図書館が開館して施設面での強化を図り、オンラインシステムの構築もできた。市民読書活動推進団体「よもーね！マキノハラ」も発足し市民参加の図書館として確立できた。他部署でも新型コロナの拡大など社会の変革や学習機会の変化が起きる中、一次計画に取り上げた家庭や学校での取り組みは関係者の絶え間ない姿勢によって継続されている。

読書習慣の確立はより良い社会と幸福な人生を切り開き、未来の担い手となれる力を育む手段となる。今後の市の計画は国や県の計画との整合性を図りつつ策定していきたい。また、図書館基本計画の中でも子ども読書活動推進に触れているので、連動して進めていきたい。

◎委員からの主な意見

（議長）15 年の空白期間を経て読書活動への動きが具体化した。

（質問）静岡県の「本とともだち」プランに掲載されている数値は県全体の平均値であるが、牧之原市単体の数値は出ているのか。

（事務局）これからアンケート等を行い出していきたい。

（質問）15 年の長い空白となってしまった理由や背景を伺いたい。わかれば次の出発にもつながるのではないか。

（事務局）平成 22 年までを一次計画の期間としており、22 年度に評価した。当時の方針としてはその後も計画内にある取り組みを続ける、という取りまとめがなされた。国や県の計画も変わる中、市の計画も変えていく機運になったのが平成 30 年ころである。平成 30 年は図書館協議会ができた時期であり、子ども読書の話も出ていた。しかしハード面の整備が優先され子ども読書活動推進計画の改定には手を付けられなかった。

（議長）当時市で優先的に進めるのは図書館ということで、そこに注力していた。評価については他市町でも次の計画策定につなげている。
（事務局）平成 22 年評価時の課題点としては施設整備、システムに関する意見があった。ハード面の整備やオンライン化の要望を受けて図書交流館も作られている。一方で読み聞かせや教育現場で丁寧にやってきた点は現在でも成果としてつながっていると感じている。平成 19 年から実施しているブックスタート事業では、現在でも図書館スタッフが入っている。
（意見）保育園等、保育士の方々は本に対する熱い思いがあるが小学校、中学校と学年を上がるにつれてその思いが薄くなっていると感じる。特に中学校では熱心な教員とそうでない教員の差が大きいと思う。今回の推進計画で子どもたちへのアクションと同時に、教職員等大人の意識を向上することも大切だと思う。
（議長）「読書県しずおか」を掲げた時期は一体感があった。しかし 15 年間の間で環境や状況が変わってきたのが明らかである。小さいころは受け入れられた読書が様々な理由から本から離れているという問題意識が提起された。以前、学校では読書時間の確保が難しいという意見もいただいたが、学校現場の意見はどうか。
（意見）確かに本が好きな教員やそうでない教員がいて月々の読書量にも差がある。学校内で先生方のお勧め本の紹介等行っているが、子どもたちもスポーツやメディアなど興味関心の分野が広く、読書のみに集中させることが難しい。
（意見）小学校では全学年で図書館や司書の力を借りて行う単元があり、国語の授業などでも学校司書の力を借りている。学校司書から本の紹介をしてもらった際には子どもたちがとても影響を受けていた。
（議長）学校司書の大切さは一つのポイントだと思う。ぜひ読書計画にも入れてほしい。学校司書・司書教諭・図書館等の連携は子ども読書の普及につながる。忙しい中でも学校でも努力していることがうかがえた。
　ボランティアで長く活動されてきた立場からは何かあるか。
（意見）前回の協議会でも述べたが、朝読書がなくなったことの意味が大きかったと感じる。学校側の事情もあるので一方的なことは言えないが、大切な時間を工面してほしい。また、学校や図書館だけでなく、幼児期においては「保護者が子どもに絵本を読んであげる」、「自分が本を読む姿を見せる」といった保護者からの読み聞かせが大切ではないか。親世代への働きかけも大きいと思う。
（議長）読書計画の中に「家庭における読書」とあることからも子育ての中で親が読書への姿勢を見せることが大切である。子育て世代、親世代からの意見はどうか。
（意見）自分が子どもだった頃の読書環境は図書館のみだった。母が図書館に本を借りに行くのに合わせて自分も借りた記憶がある。住んでいる場所によっては図書館に一人では行けない子どももいるので図書館へたどりつける仕組みを設けてほしい。また市内に書店が 1 件のみで本を買う経験ができなくなった。書店がない環境も読書への親しみやすさに関係あるのではないか。

（意見）地域活動のアドバイザーとして学校に関わる中で、探求の時間で図書館の使い方を知っていたらさらに深く学習が進むのではないか。高校生でもインターネット検索がうまくできず情報が増えない事例もある。探求の授業の前に情報収集の仕方や図書館の活用方法を周知できたらよい。
（議長）子どもが自分で行ける方策、書店の大切さや図書館との連携、探求活動の中で図書館を使うと学習が深まるという意見であった。これらを読書計画に盛り込めたらよいと思う。社会的な広がりや盛り込みたい要素があるか。
（意見）働く社会人が図書館に行きたいというニーズもあるように感じている。仕事前や仕事終わりに閉館では使い勝手が悪いと感じる。
（議長）図書館というと利用者が限定されがちだが、「働き世代に活用される図書館」も大切だという意見である。牧之原市で重視すれば個性的な計画になると思う。以前農業をやっている知人が、困ったときに図書館で勉強することが楽しいという意見を貰ったことがある。静岡市立御幸町図書館は働き世代に活用される図書館としてビジネス支援に力を入れたことで注目されている図書館である。
（意見）中学校では下校時間が午後３時半と早いので、部活動としての読書活動のようなものはできないか。
（意見）教員の働き方改革もあり、現在月曜と水曜は部活動がない。５時間授業で会議を入れている。火曜・木曜・金曜は６時間授業で部活動がある。本を読む機会を作れそうにも思うが、施設の開放のための人員確保や教員の仕事時間確保の面で厳しいと感じている。
（意見）萩間小学校の生徒はいこっとが好きだと思う。知的好奇心もあり本が読める児童も多い。自転車でいこっとに行く児童もいる。部活でなくとも例えばスランプラリーのように勉強しながら交流館で本を読む。それでスタンプをもらって達成感も感じるような学習とからめた、学校と図書館の連携があると面白いのではないか。
（議長）放課後読書の可能性はまだありそうだと感じた。放課後の時間を活用したいという願いもあるが、教員の勤務や継続性など難しい面も見えた。教育行政の視点から意見を伺いたい。
（教育長）学校の環境は変わってきている。時代に応じた働き方改革を前面に出すと子ども読書推進としては理解しにくい。子どもたちのためという視点が大切になると思う。朝読書の時間に関しては全ての学校で設けているわけではなかった。一方でコミュニティスクールは全学校に設置されている関係上、授業支援に目が行きがちだが、一番のメリットは学校運営協議会で校長に意見を述べることができる所にある。そこで読書の大切さを届けるのも一つの方法ではないか。研修等を通してコミュニティスクールの運営側にも読書活動の大切さを伝えたい。
　行政管理上予算など様々な面から頂いた意見全てを反映させることは厳しい。市民にとって利用しやすい図書館を目指し、意見を踏まえて進めていきたい。
（議長）地域で学校を作る仕組みが広がっている中で、牧之原では読書も大切だという

意見が届けられれば変えていけるかもしれない。
（質問）以前も子どもの意見を伺う機会を設けてほしいと伝えた。その後どのように対応するか決まったのか。
（事務局）アンケートの形を考えている。家庭の視点も大切だと思うので、子供の意見に加えて保護者への意見もうかがおうと考えている。
（意見）可能なら子どもたちを集めて生の意見も聞く機会を設けて欲しい。
（意見）書店との関係について意見があったが、全国的にも書店が減少し地域文化が失われるのではないかという意見がある。電子書籍の普及でさらに書店の衰退も危惧されており地域の文化・書店との連携も新しい課題として大きく取りざたされている。ぜひ読書推進計画の中に盛り込んでほしい。公共図書館と学校図書館の連携では現場の様々な立場の声を聴いて反映させて、具体的な形として盛り込んでいってほしい。
（教育長）新しい学校づくりの中で学校図書館の検討を進めている。先進的な学校を見る中で子どもたちが教室から移動する途中に本がある環境はよいと感じた。「図書館に行く」ではなく、身近にある存在が望ましい。学校の片隅にある図書室といった今までのイメージから離れた、開放的な素晴らしい教育環境ができるのではないか。期待と共に意見要望をお願いしたい。
（議長）個人的に島田市の読書推進計画に関わってきて、計画の大切さと難しさは身に染みている。また、「デジタルと読書」というテーマもぜひ考えてほしい。デジタル化が急速に進む中、子どもたちがデジタル社会を生きることは避けられず、いかに両立を図るかが大切なテーマである。各地の読書推進計画でも盛り込まれていることでもあるため、ぜひ意識してほしい。
　子どもたちも大人も価値観が多様化しており、ただ読もうと推奨するだけではよくないと思う。例えば読んだ冊数や数値目標での評価ではなく、人によっては一冊を深く読んで生涯の本とするような読み方でもよいのかもしれない。
　前回も意見として述べたが、具体的に成果を上げるには計画策定委員も幅広く募ってもらえればより実りのあるものとなる。ぜひ牧之原市の独自性を出してほしい。田沼意次や茶産業に関連するものなど、文化・歴史を意識した計画も大事だと思う。

【報告事項】
（１）図書交流館「いこっと」の閉架書庫について
◎事務局説明要旨
・市の課題として不登校児童の増加が挙げられる。不登校児童の受け入れ先として教育支援センター「フルール」があるが、増加する対象児童・生徒に対応できるだけのスペースが不足しており、新たな受入れ場所の候補としていこっと閉架書庫を検討している。
　現状として、ただ閉架書庫としてだけでなくボランティアの制作物の保管や練習場所としても活用中である。今年度は 35 回のボランティアによる利用があり、週一回は利用されている計算である。

移転する場合、２万冊以上の収蔵できる広さや床の強度などいくつか条件が存在する。その中でも優先順位をつけて検討し、秋ごろまでに候補地を選定したい。

◎委員からの主な意見
（意見）相良小学校と中学校の間にある民俗資料館はどうか。
（事務局）耐震性能に課題があり、立ち入り禁止になっている。
（議長）候補地は一つなのか。
（事務局）現在は移転先を探している所である。
（教育長）榛原地区の方でフルールを開設しているが相良地区の親の送迎が大変だという意見もある。週一回相良地区でＢ＆Ｇの会議室を開放しているが、このニーズが高まれば相良の方にも開設したい。不登校の児童生徒は、「学校に行けない」、「学校と離れている支援センターなら行ける」、「家から出ない」など様々。社会から隔離からされて人と接しないままという事態を避け、社会と接する機会を増やしたい。
　閉架書庫が候補の一つである理由として教育委員会事務局が近く、学校からはある程度距離がある点が挙げられる。子どものニーズに合ったものを検討したい。
（意見）保護者からも榛原だけでなく相良にもあればよいという意見があった。
（議長）教育の課題で大切なテーマである。閉架書庫を確保した際にもボランティアの作業スペースは課題だった。しかし教育委員会全体の事情からするとやむを得ないとも思う。ボランティア目線からなにか意見はあるか。
（意見）候補地の選定を行うのは図書館か教育委員会かどちらが中心となるのか。図書館が探すことには違和感がある。
（事務局）閉架書庫として使用している現状から、優先順位を決めて最低限の条件から出していく。求められているのが学校現場であるため、図書係だけではなく互いに譲歩しつつ考えたい。
（意見）この事業は、教育委員会全体で行う事業と捉えている。図書館の予算・人員で資料の移動・整備行うのではなく、教育委員会事業として行って欲しい。
　閉架資料の利用にあたり、すぐ移動・提供できる場所という利便性・提供の良さも条件の一つとして入れてほしい。
（事務局）決して図書館で探すという状況ではない。教育委員会として考えた時に閉架書庫を使用する案が出てきた。全体のバランスを考慮した検討事項である。方針としてフルールの移動を考えている。
（議長）皆で協力してやってほしい。
（意見）市の図書館は利用者からしたら蔵書が少ないという意見を聞く。閉架書庫の資料の利用が増えれば閉架書庫の価値も上がる。２万冊以上の広さは大切だと思う。
　ボランティアとしては、今の閉架書庫は使いづらいと感じる。パネル等は重いものもある。二階という立地や市役所が開いている時間のみの入出が不便である。いつでも入れる場所で、なおかつ閉架書庫と図書館が近いと便利である。

（議長）入退出の制限がない点などは人員に関わる事でもあり、難しい面もあるかと思う。大切な要望が届けられたと思うので、調整していってほしい。
（意見）図書館に不登校の児童や生徒が来てもらえる環境づくりも大切なのではないか。図書館活用につながればよいと思う。
（議長）不登校の当事者にとっても図書館が居場所になる可能性を見出してほしい。

（２）令和７年度人員体制について
◎事務局説明要旨
・来年度の図書館人員体制を固めていく中、市全体でも職員数の見直しを行っている。図書館では 12 名いる会計年度任用職員のうち、司書資格がない職員５名がフルタイムから時短に変更になる。ただし、開館日・開館時間には影響なく対応できる見込み。

◎委員からの主な意見
（議長）協議会でも人員体制は何度も協議しており、できる限り体制の整った状態での運営を呼び掛けてきた。
（質問）指定管理や委託ではなく、市の直接雇用で運営するということか。
（事務局）指定管理等は考えておらず直営で行う。
（意見）職員が朝清掃等も行なっていると聞いたが、朝の人員を削減して日中に行うことになると運営に支障が出ると思う。また、図書館基本方針の評価でも、目標に達成しなかった点の中には人員確保によってしか改善できない内容があった。人員確保ができないことによる図書館運営に対する影響は大きい。他市町と比較してどうなのか。
（議長）業務に支障はないのか。正職員３名とのことであるが、人の配置は他市との比較資料などがあるか。
（事務局）近隣の他市町と比べると少ない水準である。かつてはさらに少ない嘱託職員（現在の会計年度任用職員）だけでシフトを回してきた経緯があり、図書交流館の開館時に人員を増やした。
（意見）職員個々の力量にだけ頼らず、教育委員会として人の雇用も含めてフォローしてほしい。会計年度任用職員のスキルアップのためにもそれなりの正規職員数が必要だと思う。協議会としては図書館の人員配置について引き続き強く要望したい。
（事務局）夏休みに高校生たちが図書館ボランティアとしてきてくれた。将来的には司書を目指したいと話してくれていた。図書館は地元の高校生が資格を得て働く場の一つにもなるのではないか。これからもあこがれてもらえる現場作りをしていきたい。
（意見）利用者側からすると職員のモチベーションの高さが図書館の顔になっている。今後も良い図書館であり続けるには、職員の質の高さが関わってくる。サービス業であるので、通常の市の職員とは違った職種だと言うことをよく考えてほしい。文化の森図書館は人員やスペースなど足りないところで一年大変だった。市全体で雇用が難しいとは思うが、是非とも職員を守る面からも考えてほしい。

（意見）図書交流館と文化の森図書館を整備し、市としてもお金をかけて取り組んだ事業だったはずである。完成した途端に人員削減となってしまった。折角教育の方面が注目され盛り上げていこうとしている最中に人員や時間を減らすのは残念である。
（質問）図書交流館・文化の森図書館共に図書館の視察受け入れもされている。これらの対応でも人員が必要である。視察受け入れでも事業としてお金を稼ぐ仕組みは市として考えないのか。
（事務局）岩手県の事例として民間施設に近い所で受け取っている所もある。自治体としては営利目的だと厳しい面があるが、何かできる形がないか模索している。
（意見）やれたらよいと模索しているうちに機運は去ってしまうので、なるべく早くやってもらいたい。
（事務局）今年度図書交流館で対応した視察取材の件数は多かった。県内外から注目されている理由は、単純に新しいからではなく官民かけ合わせたサービスの提供をすることで市民のライフスタイルが変化し、エリアの価値が高まっているからだと捉えている。
（議長）市外の利用者目線からしても両館は評価され、利用者も増えている。図書館の仕事に対して人員が必要であることが目に見えるのにも関わらず削減というのは努力しているのに残念だと感じる。報われてほしいと思う。
　基本計画の中でもあったスキルアップにもある程度時間確保が必要である。文化的な仕事を担うには、新しいものを身に着け、改善していこうという職場・空気が大切ではないか。いつも時間に追われていると基本計画に盛り込んだ取り組みはできない。
（事務局）教育委員会だけでなく全庁で時間短縮が求められており、削減は図書係だけではないということは改めて伝えたい。また、会計年度任用職員に図書館運営に対する自分の考えを文書で提出してもらい個人評価を行った。限りある時間のなかでも全体の統一ができるように努めている。
（意見）全庁で人員削減があったということであるが、成長しているにも関わらず人員削減はおかしいと思う。会計年度任用職員の個々のスキルアップについて語ってもらったが、正規職員数が少ない。会計年度任用職員を育てるには、正規職員が指導できなくてはならない。今後も利用者の満足度を上げていき、図書館を利用してもらうためには体制が弱体化しないだけの正規職員の人員配置が必要。
（意見）人員配置について強い要望が出た。事情は承知しているが意見として聞き届けてもらいたい。

以上